

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的とする。

2 調査の周期・期日

周期 昭和23年度から毎年実施（昭和23年度から昭和34年度までは、統計の名称を「学校衛生統計」として実施）。

期日 令和2年4月1日から令和3年3月31日までの間に実施。

3 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う対応

令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年4月1日から6月30日までの調査期日が、当該年度末まで延長となった。

このため、本集計結果は、成長の著しい時期において測定時期を異にしたデータを集計したものであり、過去の数値と単純比較することはできない。

4 調査の対象

満5歳から17歳までの幼児、児童及び生徒（以下「児童等」という。）の一部（抽出調査）。

なお、調査実施学校（園）数、調査対象者数及び抽出率は、次のとおりである。

区 分	学校（園）総数	児童等総数	調査実施学校（園）数	発育状態調査		健康状態調査	
				調査対象者（人）	抽出率（%）	調査対象者（人）	抽出率（%）
幼稚園	326	5,739	35	829	14.4%	906	15.8%
小学校	269	55,717	58	5,151	9.2%	18,843	33.8%
中学校	159	30,206	39	4,660	15.4%	12,869	42.6%
高等学校	77	32,155	27	2,415	7.5%	16,073	50.0%
計	831	123,817	159	13,055	10.5%	48,691	39.3%

注1:発育状態調査は、調査実施校に在籍する児童等のうちから年齢別男女別に抽出された者を対象とし、健康状態調査は、調査実施校の在学者全員を対象としている。

注2:学校（園）総数及び児童等総数は令和2年度学校基本調査（青森県分）による。

注3:幼稚園には幼保連携型認定こども園を含む。

注4:幼稚園の児童等総数は「5歳児」のみの人数である。

5 調査事項

(1) 児童等の発育状態（身長及び体重）

(2) 児童等の健康状態（栄養状態、脊柱・胸郭・四肢の状態、裸眼視力、眼の疾病・異常、難聴、耳鼻咽喉頭疾患、皮膚疾患、結核に関する検診、結核、心電図異常、心臓、蛋白検出、尿糖検出、その他の疾病・異常、歯・口腔、永久歯のう歯等数）

《利用上の注意》

(1) 年齢は、令和2年4月1日現在の満年齢である。

(2) 統計表の中の記号

「－」 計数がない場合

「…」 調査対象とならなかった場合

「0.00」 計数が単位未満の場合

「X」 標本サイズが小さい、又は標準誤差が大きいため統計数値を公表しない場合

(3) 合計の数値は、四捨五入を行っているため各項目の合計と一致しない場合がある。

II 調査結果の概要

1 発育状態

(1) 身長

- ・男子は5歳、8歳を除いた年齢で、女子は7歳を除いた年齢で全国平均以上となっており、その差が最も大きいのは、男子では11歳の0.8cm、女子では10歳の1.0cmとなっている。
- ・女子の10歳が全国第1位となっている。
- ・年間発育量をみると、男子は11歳から12歳時に8.4cm、女子は9歳から10歳時に7.9cmが最大となっている。

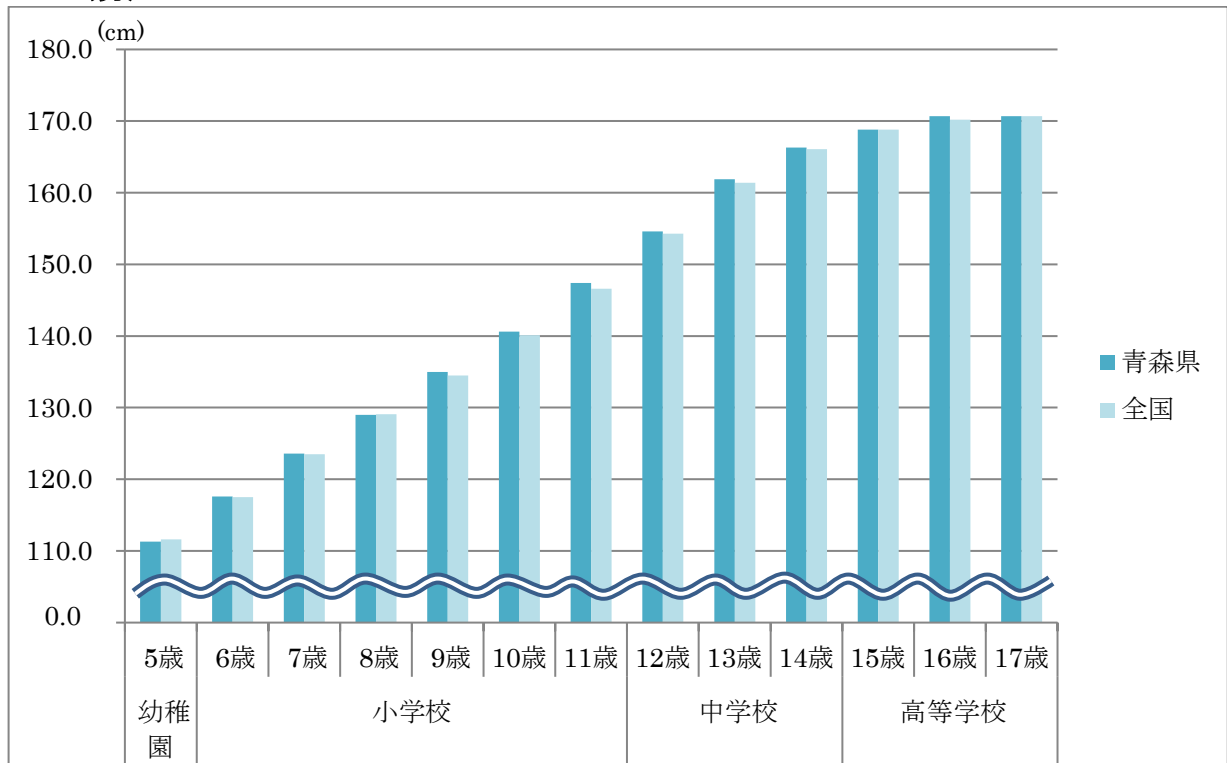
表1 身長の平均値

区分	年齢	身長 (cm)									
		青森県での調査人数	令和2年度(青森県) A	令和元年度(青森県) B	昨年度との差 A-B	年間発育量	令和2年度(全国) C	全国との差 A-C	令和2年度青森県順位	元年度青森県順位	
男	幼稚園	5歳	430	111.3	111.2	0.1	—	111.6	-0.3	24	4
		小学校	6歳	431	117.6	117.8	-0.2	6.4	117.5	0.1	11
	7歳		430	123.6	123.4	0.2	5.8	123.5	0.1	13	1
	8歳		426	129.0	129.2	-0.2	5.6	129.1	-0.1	19	2
	9歳		429	135.0	134.2	0.8	5.8	134.5	0.5	7	4
	10歳		430	140.6	140.2	0.4	6.4	140.1	0.5	6	2
	11歳		429	147.4	146.2	1.2	7.2	146.6	0.8	4	4
	中学校	12歳	780	154.6	153.7	0.9	8.4	154.3	0.3	12	5
		13歳	777	161.9	161.5	0.4	8.2	161.4	0.5	9	2
		14歳	780	166.3	166.7	-0.4	4.8	166.1	0.2	13	2
	高等学校	15歳	405	168.8	168.7	0.1	2.1	168.8	0.0	19	10
		16歳	405	170.7	170.3	0.4	2.0	170.2	0.5	6	7
		17歳	390	170.7	171.0	-0.3	0.4	170.7	0.0	20	10
	女	幼稚園	5歳	399	111.1	110.6	0.5	—	110.6	0.5	9
小学校			6歳	426	117.0	116.5	0.5	6.4	116.7	0.3	9
		7歳	425	122.5	122.4	0.1	6.0	122.6	-0.1	20	2
		8歳	425	128.6	128.8	-0.2	6.2	128.5	0.1	12	1
		9歳	438	135.3	134.6	0.7	6.5	134.8	0.5	8	2
		10歳	429	142.5	141.8	0.7	7.9	141.5	1.0	1	2
		11歳	433	148.6	147.8	0.8	6.8	148.0	0.6	7	1
中学校		12歳	777	153.4	152.8	0.6	5.6	152.6	0.8	2	2
		13歳	773	155.8	155.7	0.1	3.0	155.2	0.6	2	1
		14歳	773	157.1	156.8	0.3	1.4	156.7	0.4	5	11
高等学校		15歳	405	158.0	157.6	0.4	1.2	157.3	0.7	4	8
		16歳	405	157.7	158.5	-0.8	0.1	157.7	0.0	20	2
		17歳	405	158.0	157.8	0.2	-0.5	157.9	0.1	17	22

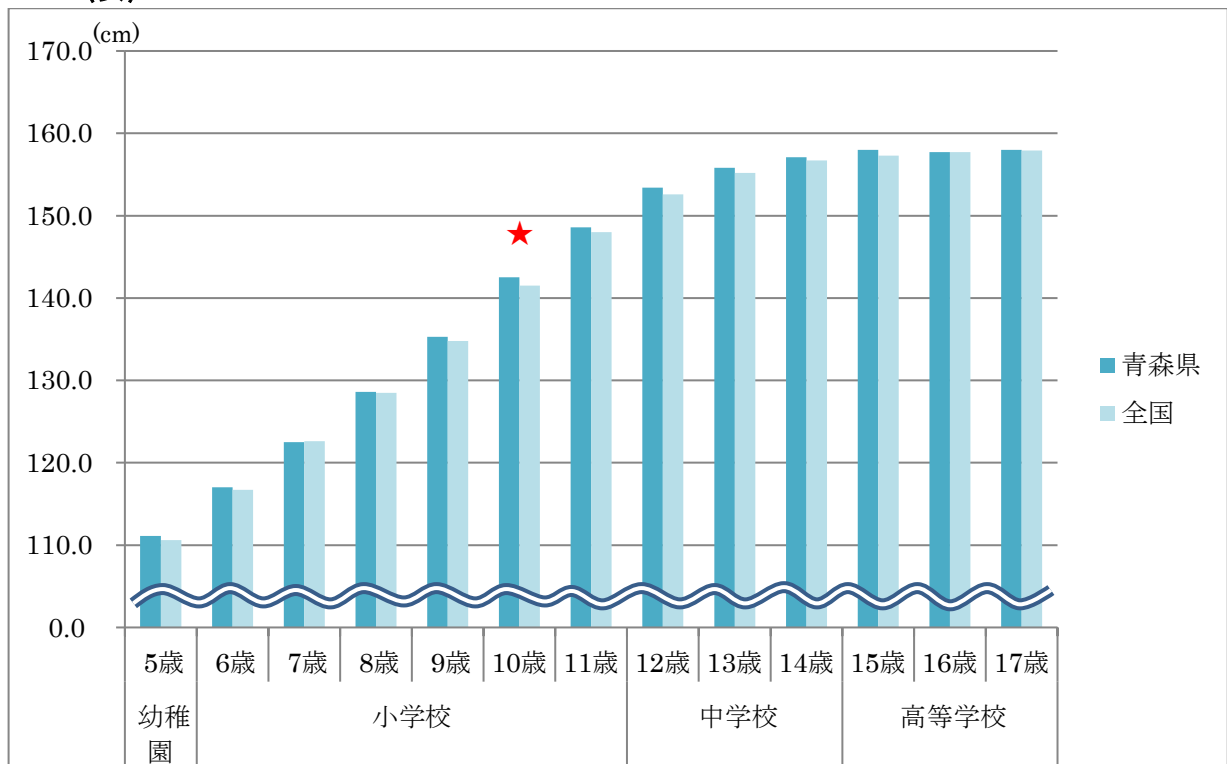
(注) : 1. 年間発育量とは、前年度からの発育増加量を指す。例えば、男子11歳の7.2cmは、147.4cm (令和2年度の11歳の数値) - 140.2cm (令和元年度の10歳の数値) で求められる。

グラフ1 身長の平均値

〈男〉



〈女〉



★ : 全国1位

(2) 体 重

- ・男子、女子とも全年齢で全国平均を上回っており、その差が最も大きいのは、男子では15歳の2.5kg、女子では15歳の2.8kgとなっている。
- ・男子は6歳、11歳、12歳、女子は5歳、9歳、12歳、13歳、14歳、15歳で全国第1位となっている。
- ・年間発育量をみると、男子は11歳から12歳時の7.4kg、女子は11歳から12歳時の6.8kgが最大となっている。

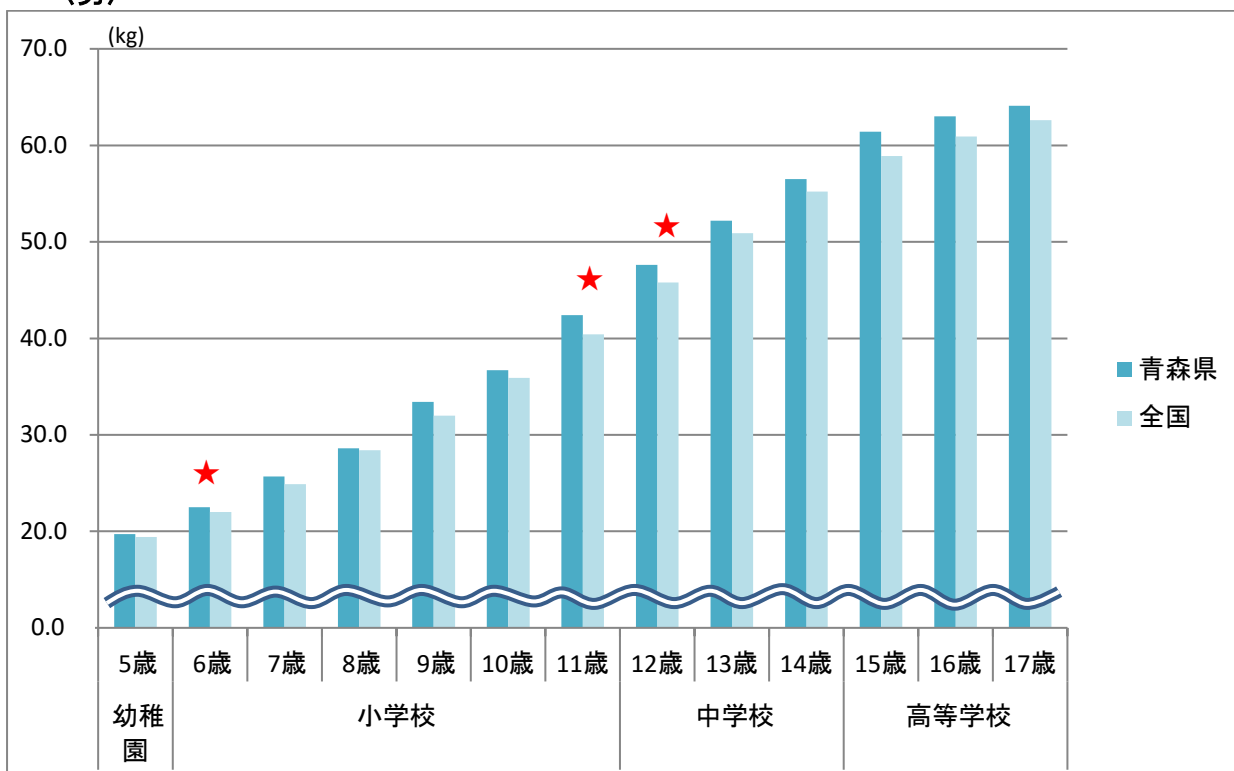
表2 体重の平均値

区 分	年齢	体 重 (kg)									
		青森県 での調 査人数	令和2年度 (青森県) A	令和元年度 (青森県) B	昨年度との 差 A-B	年 間 発育量	令和2年度 (全 国) C	全国との 差 A-C	令和2年度 青森県 順 位	元年度 青森県 順 位	
男	幼稚園	5歳	430	19.7	19.5	0.2	—	19.4	0.3	7	2
	小学校	6歳	431	22.5	22.6	-0.1	3.0	22.0	0.5	1	1
		7歳	430	25.7	25.1	0.6	3.1	24.9	0.8	3	1
		8歳	426	28.6	29.1	-0.5	3.5	28.4	0.2	18	1
		9歳	429	33.4	32.1	1.3	4.3	32.0	1.4	2	1
		10歳	430	36.7	35.7	1.0	4.6	35.9	0.8	7	3
		11歳	429	42.4	40.2	2.2	6.7	40.4	2.0	1	4
	中学校	12歳	780	47.6	45.7	1.9	7.4	45.8	1.8	1	6
		13歳	777	52.2	52.0	0.2	6.5	50.9	1.3	5	1
		14歳	780	56.5	57.4	-0.9	4.5	55.2	1.3	3	1
	高等学校	15歳	405	61.4	60.0	1.4	4.0	58.9	2.5	3	8
		16歳	405	63.0	62.5	0.5	3.0	60.9	2.1	2	3
		17歳	390	64.1	65.5	-1.4	1.6	62.6	1.5	7	1
	女	幼稚園	5歳	399	19.9	19.4	0.5	—	19.0	0.9	1
小学校		6歳	426	21.9	21.8	0.1	2.5	21.5	0.4	2	1
		7歳	425	24.4	24.2	0.2	2.6	24.3	0.1	14	2
		8歳	425	28.0	28.2	-0.2	3.8	27.4	0.6	3	1
		9歳	438	32.4	31.5	0.9	4.2	31.1	1.3	1	2
		10歳	429	36.6	36.1	0.5	5.1	35.4	1.2	2	1
		11歳	433	41.7	40.3	1.4	5.6	40.3	1.4	3	3
中学校		12歳	777	47.1	45.9	1.2	6.8	44.5	2.6	1	1
		13歳	773	50.0	48.8	1.2	4.1	47.9	2.1	1	3
		14歳	773	51.7	51.9	-0.2	2.9	50.2	1.5	1	1
高等学校		15歳	405	54.0	53.5	0.5	2.1	51.2	2.8	1	1
		16歳	405	53.3	53.5	-0.2	-0.2	51.9	1.4	4	7
		17歳	405	54.0	54.1	-0.1	0.5	52.3	1.7	3	4

(注) : 1. 年間発育量とは、前年度からの発育増加量を指す。例えば、男子11歳の6.7kgは、42.4kg (令和2年度の11歳の数値) - 35.7kg (元年度の10歳の数値) で求められる。

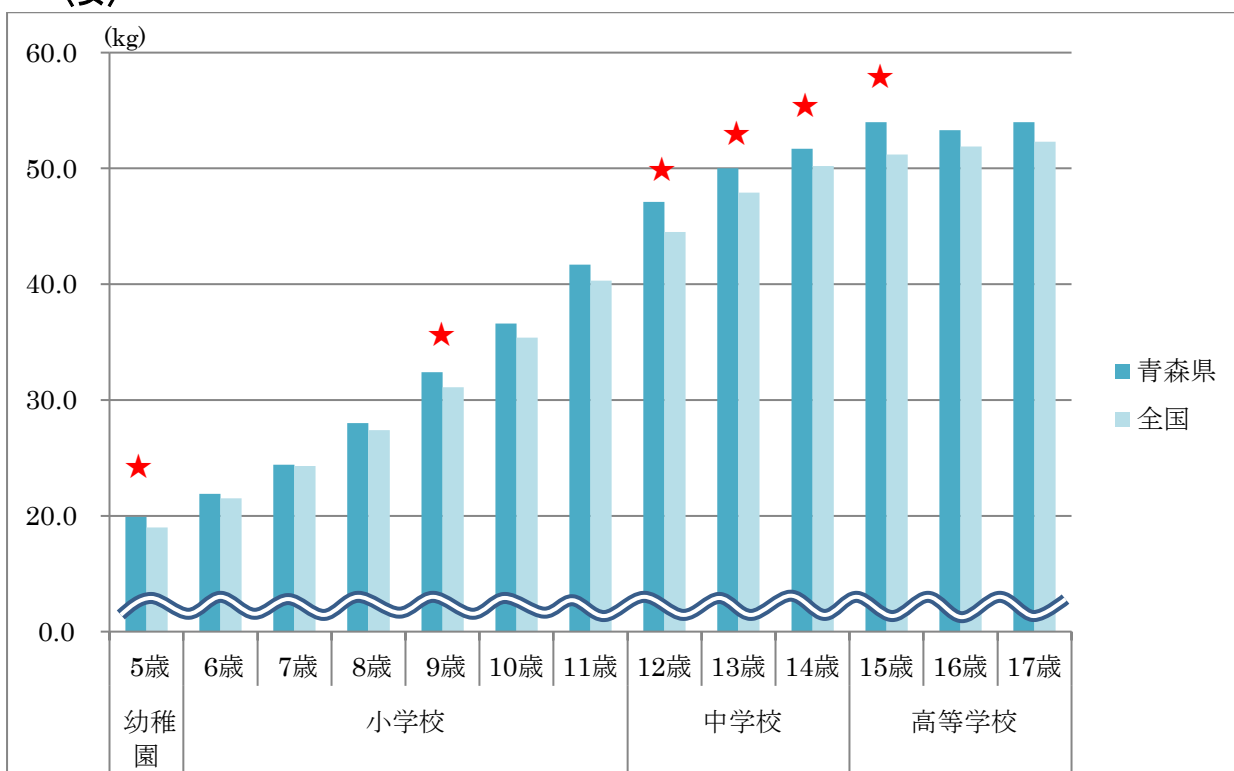
グラフ2 体重の平均値

〈男〉



★ : 全国1位

〈女〉



★ : 全国1位

(3) 肥満傾向児・痩身傾向児の出現率

肥満傾向児及び痩身傾向児の本県と全国における出現率は次のとおりで、肥満傾向児の出現率は、大半の年齢で全国平均を上回っている。

① 肥満傾向児

- ・男子では、11歳の出現率が20.86%で最も高く、全国値との差も11歳が最も大きく、7.55ポイント上回っている。
- ・女子では、12歳の出現率が16.95%で最も高く、全国値との差も12歳が最も大きく、8.06ポイント上回っている。
- ・男子は7歳、9歳、11歳及び14歳、女子は5歳、9歳及び12歳で全国第1位となっている。

② 痩身傾向児

- ・男子では、15歳の出現率が3.44%で最も高く、全国値との差では16歳が最も大きく、1.61ポイント下回っている。
- ・女子では、10歳の出現率が4.20%で最も高く、全国値との差では12歳が最も大きく、2.12ポイント下回っている。

表3 肥満傾向児・痩身傾向児の出現率

単位 (%)

区 分	年齢	肥 満 傾 向 児							痩 身 傾 向 児							
		令和2年度 (青森県) A	令和元年度 (青森県) B	昨年度との 差 A-B	令和2年度 (全 国) C	全国との 差 A-C	令和2年度 青森県 順 位	元年度 青森県 順 位	令和2年度 (青森県) D	令和元年度 (青森県) E	昨年度との 差 D-E	令和2年度 (全 国) F	全国との 差 D-F	令和2年度 青森県 順 位	元年度 青森県 順 位	
男	幼稚園	5歳	4.58	3.12	1.46	3.65	0.93	9	16	0.72	0.20	0.52	0.50	0.22	10	26
		6歳	9.93	9.59	0.34	5.85	4.08	2	1	0.70	0.47	0.23	0.42	0.28	8	22
	小学校	7歳	15.36	10.41	4.95	8.77	6.59	1	3	0.49	0.77	-0.28	0.62	-0.13	25	6
		8歳	9.99	15.36	-5.37	11.67	-1.68	33	1	1.48	1.17	0.31	0.97	0.51	5	8
		9歳	20.78	16.17	4.61	13.58	7.20	1	1	0.59	0.37	0.22	1.83	-1.24	45	46
		10歳	15.59	13.12	2.47	14.24	1.35	17	10	2.36	2.99	-0.63	2.76	-0.40	28	14
		11歳	20.86	13.11	7.75	13.31	7.55	1	14	2.12	3.48	-1.36	3.45	-1.33	43	13
	中学校	12歳	16.57	14.08	2.49	12.71	3.86	5	7	2.89	3.24	-0.35	3.65	-0.76	28	15
		13歳	14.82	12.96	1.86	12.18	2.64	7	5	1.51	1.56	-0.05	2.99	-1.48	42	36
		14歳	14.37	14.48	-0.11	10.94	3.43	1	2	2.48	1.66	0.82	3.24	-0.76	31	35
	高等学校	15歳	18.17	15.82	2.35	12.07	6.10	4	3	3.44	5.22	-1.78	4.24	-0.80	29	2
		16歳	14.84	15.59	-0.75	11.54	3.30	6	3	2.46	1.61	0.85	4.07	-1.61	40	42
		17歳	15.66	17.34	-1.68	12.48	3.18	5	1	3.12	0.66	2.46	3.57	-0.45	21	47
	女	幼稚園	5歳	7.97	7.28	0.69	3.37	4.60	1	1	-	0.40	-	0.38	-	-
6歳			5.13	9.51	-4.38	5.16	-0.03	22	1	-	0.60	-	0.63	-	-	18
小学校		7歳	9.11	8.76	0.35	7.25	1.86	9	3	1.05	0.33	0.72	0.65	0.40	8	32
		8歳	11.80	13.49	-1.69	8.89	2.91	5	1	1.74	2.12	-0.38	1.09	0.65	7	2
		9歳	16.53	11.29	5.24	9.32	7.21	1	6	1.06	0.38	0.68	2.35	-1.29	42	47
		10歳	10.42	12.21	-1.79	9.47	0.95	14	3	4.20	2.37	1.83	2.76	1.44	2	23
		11歳	13.17	10.02	3.15	9.36	3.81	2	18	2.64	1.83	0.81	2.87	-0.23	22	35
中学校		12歳	16.95	13.26	3.69	8.89	8.06	1	3	2.25	2.84	-0.59	4.37	-2.12	45	36
		13歳	14.57	9.73	4.84	8.53	6.04	2	15	2.44	3.41	-0.97	3.20	-0.76	32	21
		14歳	11.00	11.44	-0.44	8.29	2.71	7	1	2.07	2.26	-0.19	2.79	-0.72	39	24
高等学校		15歳	13.10	13.91	-0.81	7.30	5.80	2	1	2.08	2.04	0.04	3.13	-1.05	35	25
		16歳	10.80	8.80	2.00	6.59	4.21	3	10	2.34	2.43	-0.09	3.24	-0.90	27	11
		17歳	11.31	10.92	0.39	7.63	3.68	7	4	2.50	1.40	1.10	2.82	-0.32	17	29

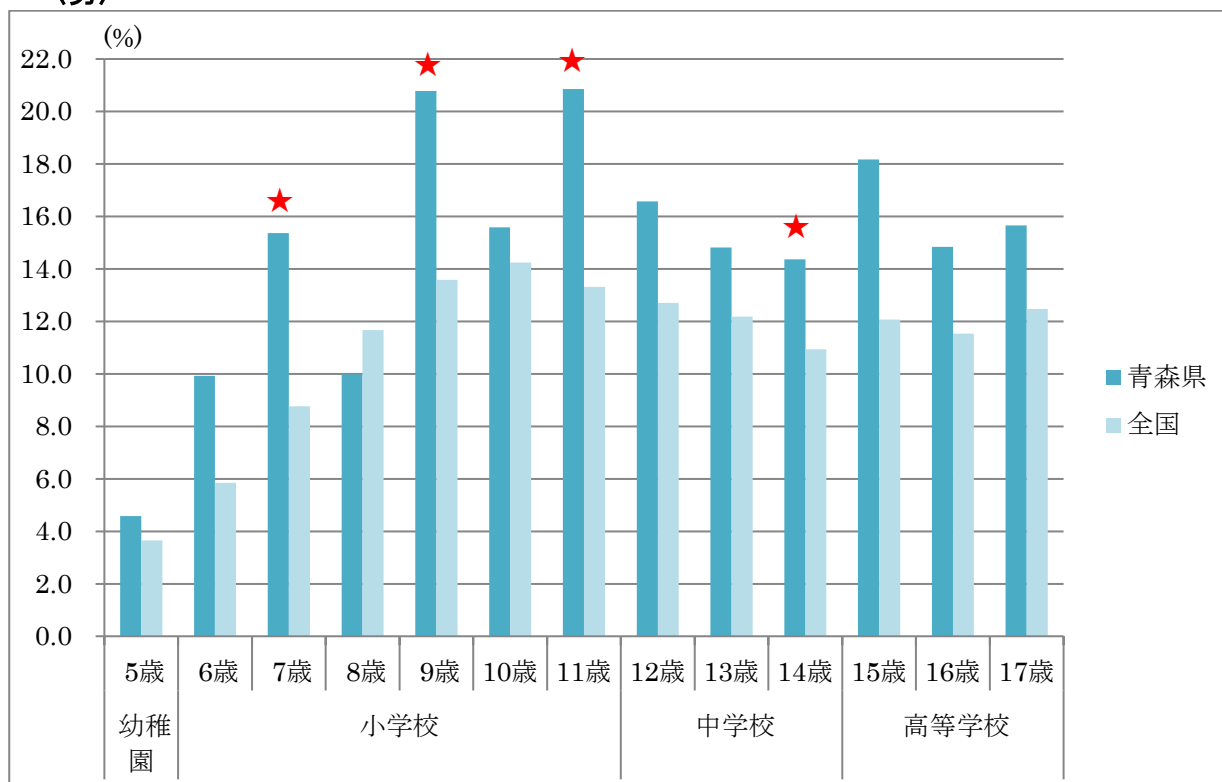
注：1. 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。

2. 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。

※ 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100%

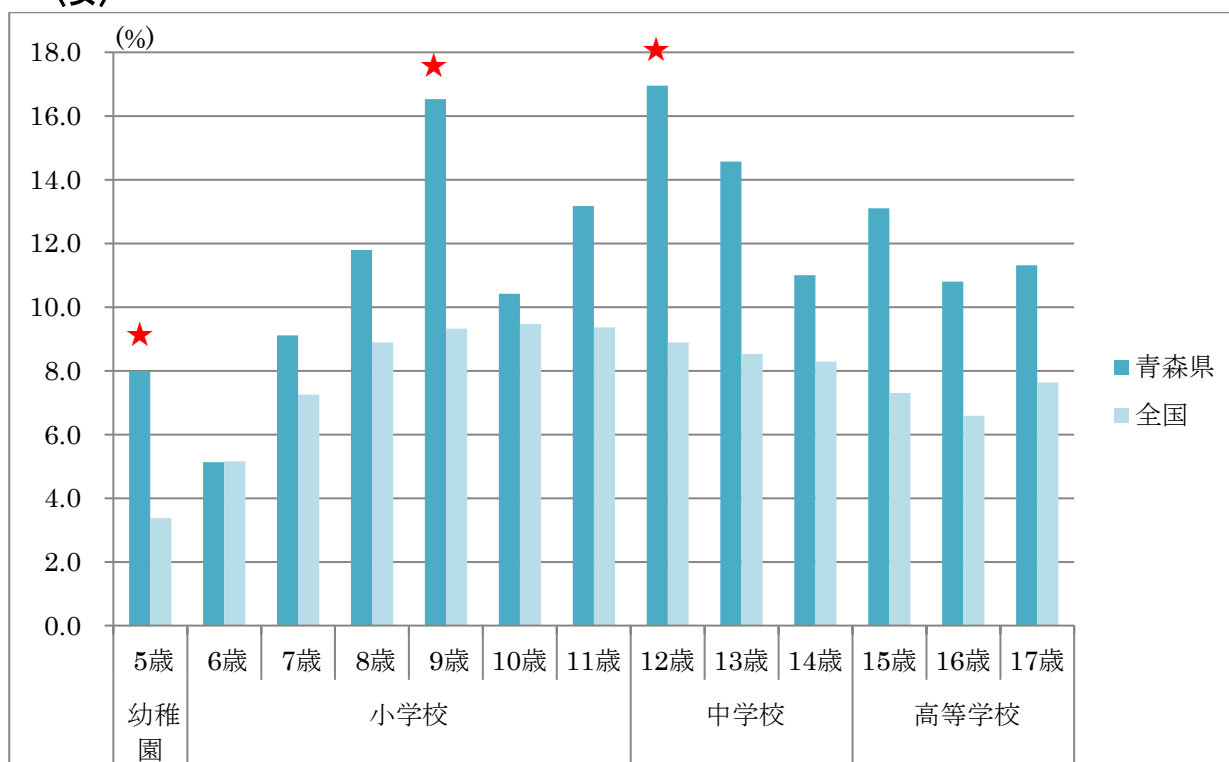
グラフ3 肥満傾向児の出現率

〈男〉



★ : 全国1位

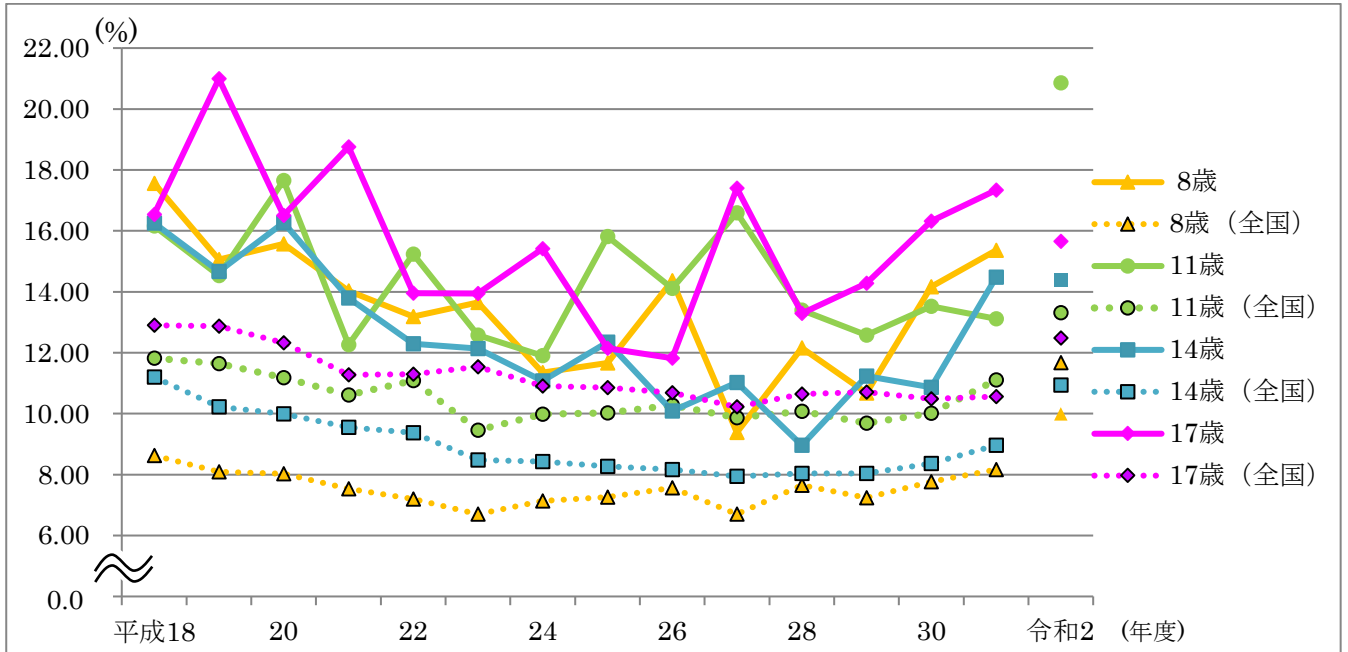
〈女〉



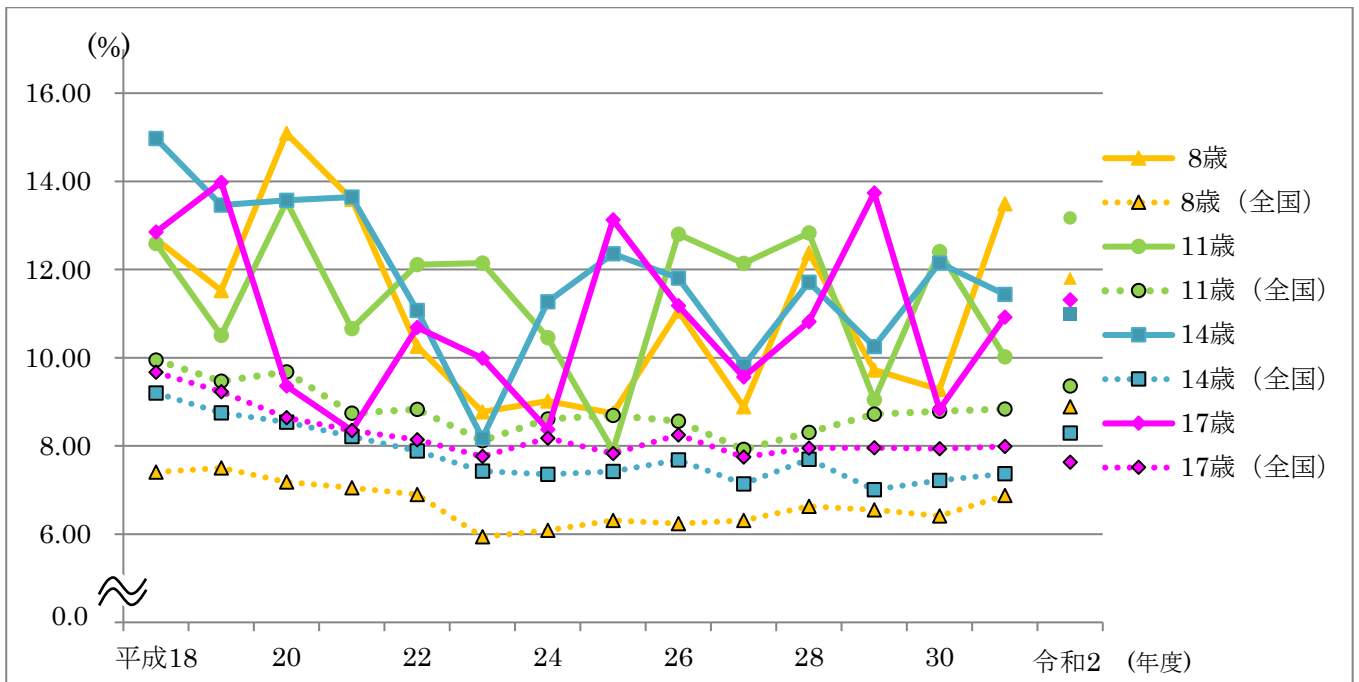
★ : 全国1位

グラフ4 肥満傾向児の出現率の推移

○男子



○女子



(参考) 世代間比較

ア 親の世代(30年前)との身長・体重との比較

親の世代である30年前の平成2年度と比較すると、身長・体重のいずれも、大半の年齢で親の世代を上回っている。

① 身長

- ・男子では、5歳及び8歳を除いた各年齢で親の世代以上の数値となっており、世代間の差は13歳が最も大きく、1.8cm上回っている。
- ・女子では、7歳及び16歳を除いた各年齢で親の世代以上の数値となっており、世代間の差は10歳が最も大きく、1.8cm上回っている。

② 体重

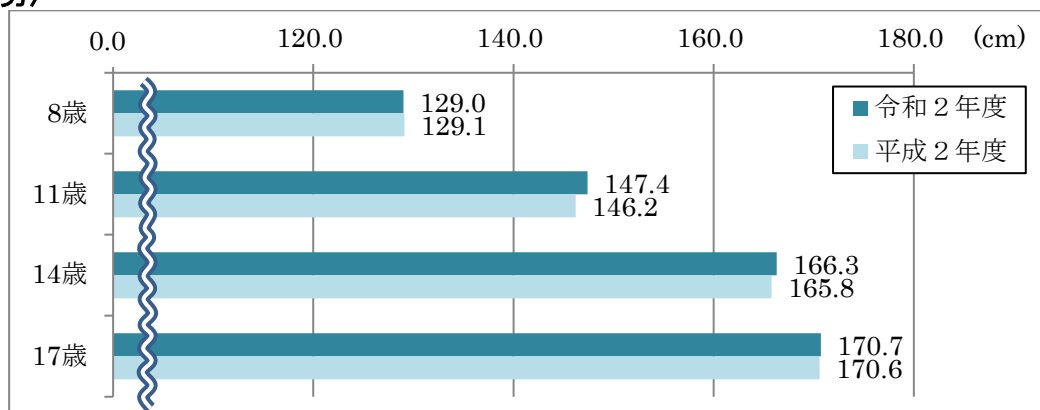
- ・男子では、5歳及び14歳を除く各年齢で親の世代以上の数値となっており、世代間の差は11歳が最も大きく、2.1kg上回っている。
- ・女子では、14歳、16歳及び17歳を除く各年齢で親の世代以上の数値となっており、世代間の差は11歳及び12歳が最も大きく、1.3kg上回っている。

表4 30年前の身長・体重の平均値との比較

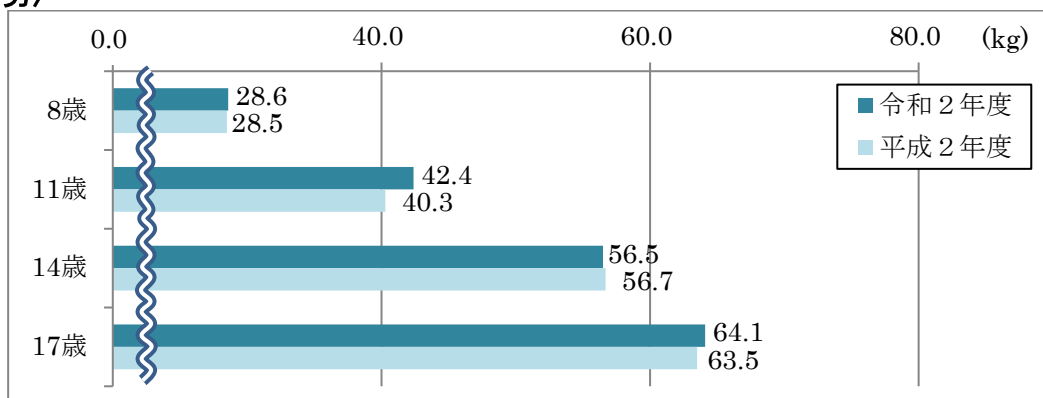
区分	年齢	身長 (cm)			体重 (kg)			
		令和2年度	平成2年度	差	令和2年度	平成2年度	差	
		A	B	A-B	C	D	C-D	
男	幼稚園	5歳	111.3	111.9	-0.6	19.7	20.0	-0.3
		6歳	117.6	117.6	0.0	22.5	22.2	0.3
	小学校	7歳	123.6	123.0	0.6	25.7	24.8	0.9
		8歳	129.0	129.1	-0.1	28.6	28.5	0.1
		9歳	135.0	134.3	0.7	33.4	32.1	1.3
		10歳	140.6	139.4	1.2	36.7	35.5	1.2
		11歳	147.4	146.2	1.2	42.4	40.3	2.1
	中学校	12歳	154.6	153.1	1.5	47.6	45.9	1.7
		13歳	161.9	160.1	1.8	52.2	51.8	0.4
		14歳	166.3	165.8	0.5	56.5	56.7	-0.2
	高等学校	15歳	168.8	168.3	0.5	61.4	61.4	0.0
		16歳	170.7	169.7	1.0	63.0	62.2	0.8
		17歳	170.7	170.6	0.1	64.1	63.5	0.6
女	幼稚園	5歳	111.1	111.1	0.0	19.9	19.6	0.3
		6歳	117.0	116.7	0.3	21.9	21.7	0.2
	小学校	7歳	122.5	122.7	-0.2	24.4	24.3	0.1
		8歳	128.6	128.0	0.6	28.0	27.4	0.6
		9歳	135.3	134.3	1.0	32.4	31.2	1.2
		10歳	142.5	140.7	1.8	36.6	36.1	0.5
		11歳	148.6	147.6	1.0	41.7	40.4	1.3
	中学校	12歳	153.4	152.7	0.7	47.1	45.8	1.3
		13歳	155.8	155.0	0.8	50.0	49.1	0.9
		14歳	157.1	156.5	0.6	51.7	52.0	-0.3
	高等学校	15歳	158.0	157.4	0.6	54.0	53.3	0.7
		16歳	157.7	157.8	-0.1	53.3	54.0	-0.7
		17歳	158.0	158.0	0.0	54.0	54.3	-0.3

グラフ5 30年前（親の世代）の身長・体重の平均値との比較

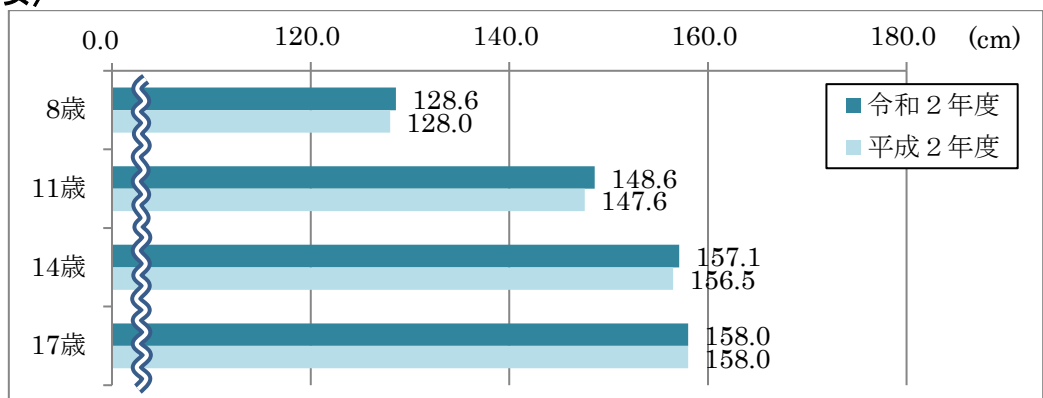
〈身長・男〉



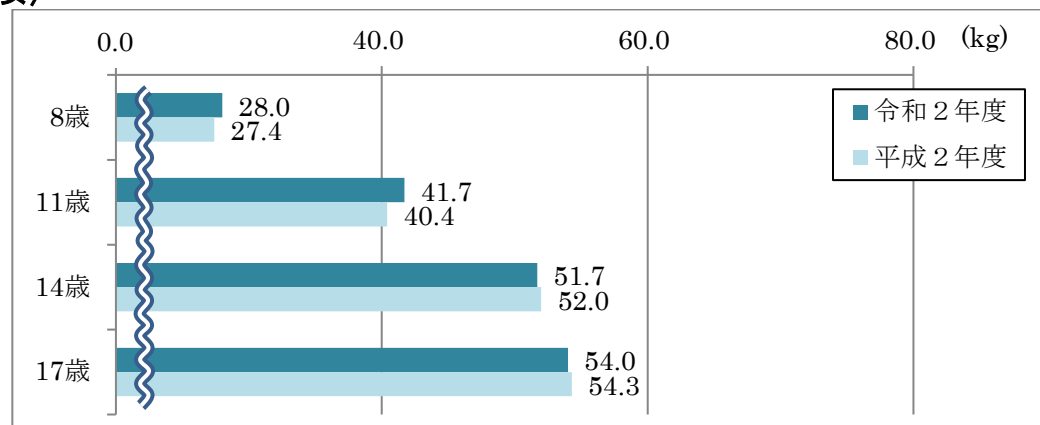
〈体重・男〉



〈身長・女〉



〈体重・女〉



イ 子世代・親の世代・祖父母世代との比較

- ・子世代、親の世代（30年前）、祖父母世代（55年前）を比較すると、親の世代と子世代間で、17歳女子の身長が同数値であり、8歳男子の身長及び14歳男女の体重、17歳女子の体重については、減少しているが、それ以外では、身長・体重とも各世代間で増加している。
- ・全体的に祖父母世代から親の世代が大きく増加しており、親の世代と子世代の間でも増加しているが、祖父母世代と親の世代の間に比べると幅は小さい。

表5 子世代・親の世代・祖父母世代との比較

8歳（小学校3年生）

区分	平均身長(cm)		平均体重(kg)	
	男	女	男	女
祖父母世代（昭和40年度） （昭和31年度生まれ）	123.5	122.9	23.9	23.3
親の世代（平成2年度） （昭和56年度生まれ）	129.1	128.0	28.5	27.4
子世代（令和2年度） （平成23年度生まれ）	129.0	128.6	28.6	28.0

11歳（小学校6年生）

区分	平均身長(cm)		平均体重(kg)	
	男	女	男	女
祖父母世代（昭和40年度） （昭和28年度生まれ）	138.1	140.4	32.3	34.1
親の世代（平成2年度） （昭和53年度生まれ）	146.2	147.6	40.3	40.4
子世代（令和2年度） （平成20年度生まれ）	147.4	148.6	42.4	41.7

14歳（中学校3年生）

区分	平均身長(cm)		平均体重(kg)	
	男	女	男	女
祖父母世代（昭和40年度） （昭和25年度生まれ）	157.4	151.5	48.1	47.0
親の世代（平成2年度） （昭和50年度生まれ）	165.8	156.5	56.7	52.0
子世代（令和2年度） （平成17年度生まれ）	166.3	157.1	56.5	51.7

17歳（高校3年生）

区分	平均身長(cm)		平均体重(kg)	
	男	女	男	女
祖父母世代（昭和40年度） （昭和22年度生まれ）	165.4	154.3	58.0	51.9
親の世代（平成2年度） （昭和47年度生まれ）	170.6	158.0	63.5	54.3
子世代（令和2年度） （平成14年度生まれ）	170.7	158.0	64.1	54.0

ウ 17歳の12年間の発育量の世代間比較

17歳（平成14年度生まれ）について、5歳時（平成20年度）から12年間の発育量をみると、男子は身長が59.0cm、体重が44.4kg、女子は身長が47.8cm、体重が34.9kgとなっている。

① 年間発育量が最も大きい時期

男子は、身長が11歳から12歳の間（7.5cm）、体重も11歳から12歳の間（5.9kg）が年間発育量の最大値となっている。女子は、身長が9歳から10歳の間（6.9cm）、体重は10歳から11歳の間（4.8kg）が年間発育量の最大値となっている。

② 親の世代（昭和47年度生まれ）との比較

年間発育量が最も大きい時期について、親の世代である30年前の昭和47年度生まれと比較すると、男子については、身長及び体重が平成14年度生まれの方が早期に最大値を迎え、女子については、身長が平成14年度生まれの方が早期に最大値を迎え、体重については、10歳から11歳の間、共通して最大値を示している。

表6 17歳の12年間の発育量(親の世代との比較)

－ 平成14年度生まれ(令和2年4月時点17歳)と昭和47年度生まれ(平成2年4月時点17歳)の比較 －

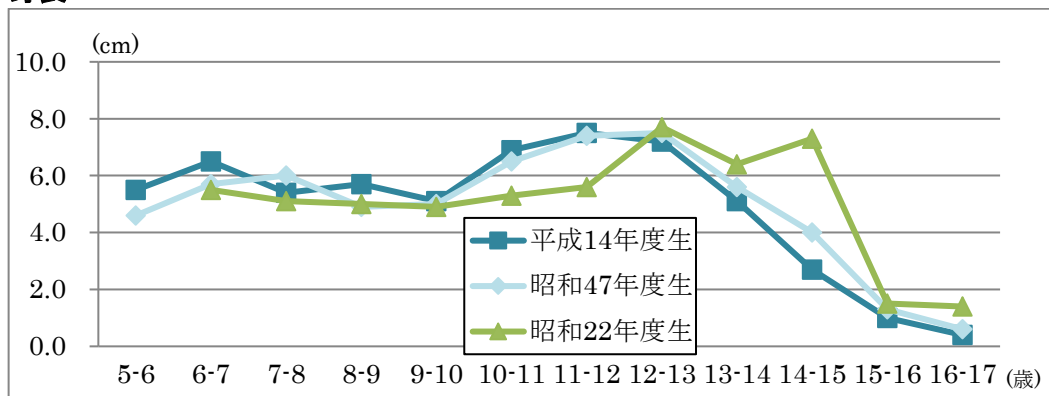
区 分	当時	身 長 (c m)				体 重 (k g)				
		平成14年度 生まれ	年 間 発育量	昭和47年度 生まれ	年 間 発育量	平成14年度 生まれ	年 間 発育量	昭和47年度 生まれ	年 間 発育量	
男	幼稚園	5歳	111.7		111.5		19.7		19.3	
	小学校	6歳	117.2	5.5	116.1	4.6	22.1	2.4	21.1	1.8
		7歳	123.7	6.5	121.8	5.7	25.1	3.0	23.6	2.5
		8歳	129.1	5.4	127.8	6.0	28.5	3.4	26.6	3.0
		9歳	134.8	5.7	132.7	4.9	32.1	3.6	29.6	3.0
		10歳	139.9	5.1	137.7	5.0	36.1	4.0	33.5	3.9
	中学校	11歳	146.8	6.9	144.2	6.5	40.5	4.4	37.5	4.0
		12歳	154.3	7.5	151.6	7.4	46.4	5.9	43.7	6.2
		13歳	161.5	7.2	159.1	7.5	51.9	5.5	50.2	6.5
	高等学校	14歳	166.6	5.1	164.7	5.6	56.1	4.2	55.8	5.6
		15歳	169.3	2.7	168.7	4.0	61.3	5.2	60.5	4.7
		16歳	170.3	1.0	170.0	1.3	62.5	1.2	62.3	1.8
17歳		170.7	0.4	170.6	0.6	64.1	1.6	63.5	1.2	
12年間の発育量		59.0		59.1		44.4		44.2		
女	幼稚園	5歳	110.2		110.1		19.1		18.8	
	小学校	6歳	116.7	6.5	115.4	5.3	21.9	2.8	20.8	2.0
		7歳	122.7	6.0	120.9	5.5	24.3	2.4	23.0	2.2
		8歳	128.5	5.8	126.8	5.9	27.5	3.2	26.0	3.0
		9歳	134.9	6.4	132.8	6.0	31.7	4.2	29.9	3.9
		10歳	141.8	6.9	139.3	6.5	35.8	4.1	33.9	4.0
	中学校	11歳	148.1	6.3	146.9	7.6	40.6	4.8	39.4	5.5
		12歳	152.8	4.7	152.2	5.3	45.0	4.4	44.8	5.4
		13歳	156.0	3.2	155.2	3.0	49.5	4.5	48.6	3.8
	高等学校	14歳	157.1	1.1	156.9	1.7	51.7	2.2	51.8	3.2
		15歳	157.5	0.4	157.3	0.4	52.3	0.6	53.3	1.5
		16歳	158.5	1.0	157.6	0.3	53.5	1.2	54.2	0.9
17歳		158.0	-0.5	158.0	0.4	54.0	0.5	54.3	0.1	
12年間の発育量		47.8		47.9		34.9		35.5		

(注)：年間発育量とは、前年度からの発育増加量を指す。例えば、平成14年度生まれの6歳時の年間発育量は、平成21年度の6歳の数値から平成20年度の5歳の数値を引いたものである。

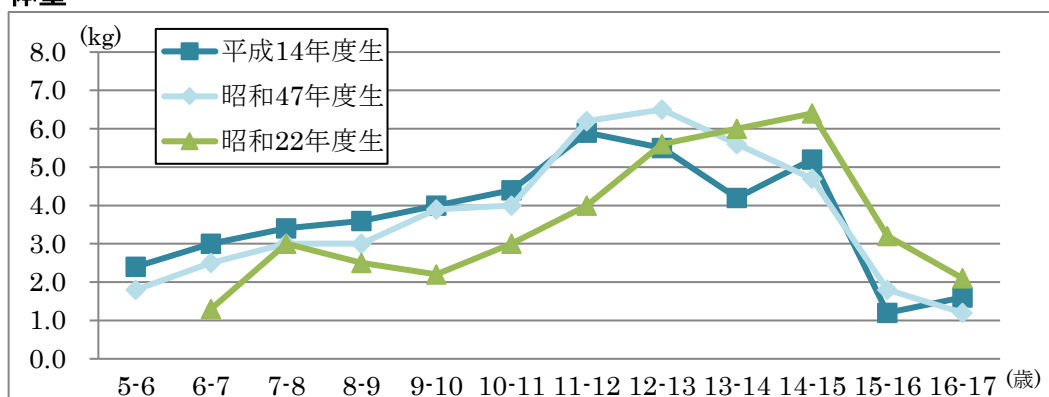
- ・年間発育量を世代間で比較すると、男子女子共に身長、体重のいずれも、現代に近い世代ほど早期に増加している。

グラフ6 年間発育量の世代間比較

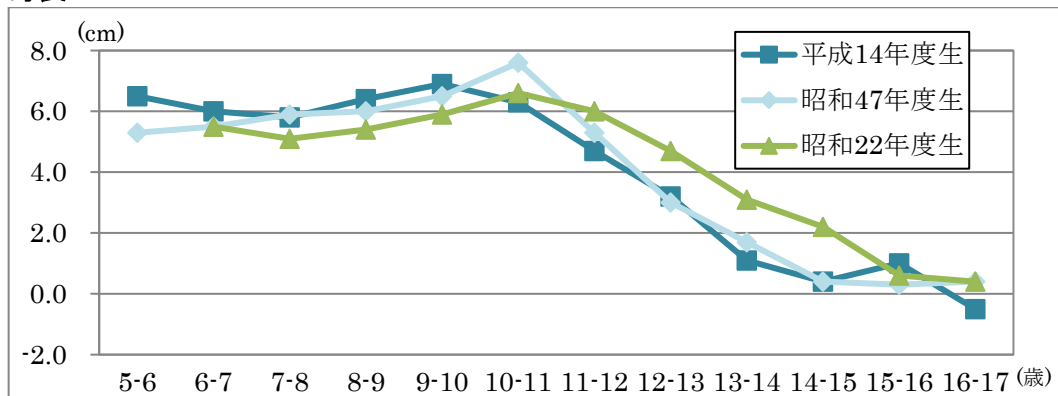
○男子身長



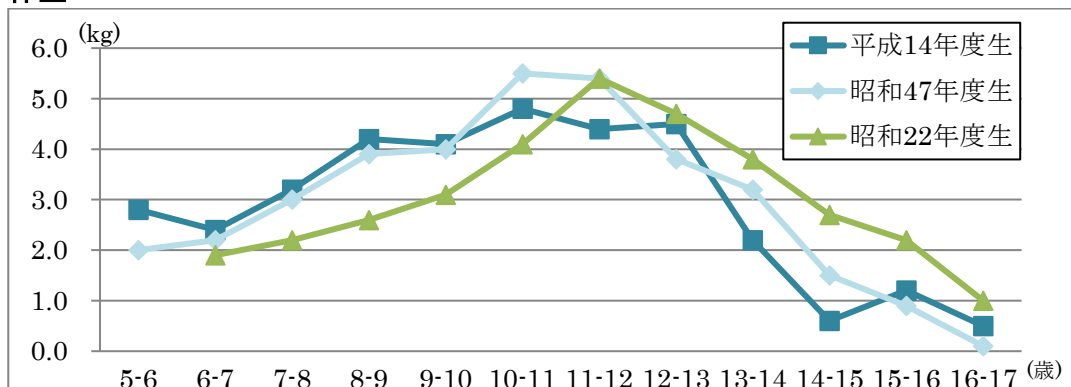
○男子体重



○女子身長



○女子体重



2 健康状態

(1) 疾病・異常の被患率等の状況

- ・ 幼稚園及び小学校においては「むし歯（う歯）」の者の割合が最も高く、小学校では次いで「裸眼視力1.0未満の者」の順になっている。
- ・ 中学校及び高等学校においては、「裸眼視力1.0未満の者」の割合が最も高く、次いで「むし歯（う歯）」の順になっている。

表7 疾病・異常の被患率等別状況

区分	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	
70%以上～80%未満				裸眼視力1.0未満の者	
60～70			裸眼視力1.0未満の者		
50～60		むし歯（う歯）			
40～50	むし歯（う歯）	裸眼視力1.0未満の者		むし歯（う歯）	
30～40			むし歯（う歯）		
20～30					
10～20		鼻・副鼻腔疾患 歯・口腔のその他の疾病・異常	鼻・副鼻腔疾患		
1～10	8～10				
	6～8	アトピー性皮膚炎	耳疾患		
	4～6	歯列・咬合	眼の疾病・異常 栄養状態 その他の疾病・異常	耳疾患 歯肉の状態 歯・口腔のその他の疾病・異常	鼻・副鼻腔疾患 歯列・咬合 歯垢の状態 歯肉の状態 その他の疾病・異常
	2～4	歯・口腔のその他の疾病・異常	歯列・咬合 歯垢の状態 せき柱・胸郭・四肢の状態	眼の疾病・異常 歯列・咬合 歯垢の状態 せき柱・胸郭・四肢の状態 心電図異常 蛋白検出の者 その他の疾病・異常	眼の疾病・異常
	1～2	ぜん息 その他の皮膚疾患 その他の疾病・異常	歯肉の状態 アトピー性皮膚炎 心電図異常 ぜん息	栄養状態 アトピー性皮膚炎	耳疾患 歯・口腔のその他の疾病・異常 アトピー性皮膚炎 心電図異常 蛋白検出の者
0.1～1	0.5～1	眼の疾病・異常 耳疾患 鼻・副鼻腔疾患 歯垢の状態 心臓の疾病・異常	口腔咽喉頭疾病・異常 その他の皮膚疾患 蛋白検出の者	ぜん息	せき柱・胸郭・四肢の状態 ぜん息
	0.1～0.5	歯肉の状態 栄養状態 せき柱・胸郭・四肢の状態 言語障害	難聴 顎関節 心臓の疾病・異常 腎臓疾患 言語障害	難聴 口腔咽喉頭疾患・異常 顎関節 その他の皮膚疾患 心臓の疾病・異常 尿糖検出の者 腎臓疾患 言語障害	難聴 口腔咽喉頭疾患・異常 顎関節 栄養状態 その他の皮膚疾患 心臓の疾病・異常 尿糖検出の者 腎臓疾患
0.1%未満		尿糖検出の者		言語障害	

注：1. この表は、健康診断受検者のうち疾病・異常該当者（疾病・異常に該当する旨健康診断票に記載のあった者）の占める割合の推定値を示したものである。

2. 「口腔咽喉頭疾病・異常」とは、アデノイド、扁桃肥大、咽喉炎、喉頭炎、扁桃炎、音声言語異常のある者等である。
3. 「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、唾石、癒合歯、要注意乳歯等のある者等である。
4. 「その他の皮膚疾患」とは、伝染性皮膚疾患、毛髪疾患等、アトピー性皮膚炎以外の皮膚疾患と判定された者である。
5. 「心電図異常」とは、心電図検査の結果、異常と判定された者である。
6. 「蛋白検出の者」とは、尿検査のうち、蛋白第1次検査の結果、尿中に蛋白が検出（陽性（+以上）又は擬陽性（±）と判定）された者である。
7. 「尿糖検出の者」とは、尿検査のうち、糖第1次検査の結果、尿中に糖が検出（陽性（+以上）と判定）された者である。

(2) 主な疾病・異常等の推移

疾病・異常等の主なものの推移は、表8のとおりとなっている。

表8 主な疾病・異常等の推移

(単位：%)

区 分		未裸 満眼 の視 者力 1.0	耳 疾 患	疾 鼻 ・ 副 鼻 患 腔	疾 口 患 腔 ・ 咽 異 常 頭	(む う し 歯 歯)	皮 ア ト 膚 ー 炎 性	心 電 図 異 常	の 蛋 白 検 者 出	ぜ ん 息
幼稚園	青森県 平成22年度	X	2.0	5.5	0.7	49.5	1.9	…	-	1.8
	青森県 平成28年度	X	-	1.7	0.4	50.5	1.4	…	-	0.8
	青森県 平成29年度	X	2.1	1.7	0.7	56.8	1.3	…	1.6	2.0
	青森県 平成30年度	26.5	0.6	2.0	0.8	46.2	2.3	…	0.3	1.5
	青森県 令和元年度	X	5.2	0.5	0.2	41.4	1.9	…	1	4.6
	青森県 令和2年度	X	0.5	0.9	-	45.8	6.9	…	-	1.7
	全 国 令和2年度	27.9	2.0	2.4	1.0	30.3	1.9	…	1.0	1.6
小学校	青森県 平成22年度	42.4	5.1	16.1	1.3	68.8	1.7	2.3	0.8	2.2
	青森県 平成28年度	45.8	5.7	19.1	1.4	62.4	1.3	2.0	1.1	1.9
	青森県 平成29年度	44.2	4.9	16.3	1.0	60.2	1.7	1.3	1.1	2.1
	青森県 平成30年度	46.2	5.6	20.4	1.6	57.5	2.2	1.5	0.6	2.4
	青森県 令和元年度	46.2	5.5	15.5	0.7	54.9	1.4	2.6	0.7	1.8
	青森県 令和2年度	47.1	6.2	17.5	0.8	50.5	1.5	1.3	1.0	1.5
	全 国 令和2年度	37.5	6.1	11.0	1.0	40.2	3.2	2.5	0.9	3.3
中学校	青森県 平成22年度	65.5	3.1	16.8	0.5	62.5	1.9	2.7	2.3	2.1
	青森県 平成28年度	63.7	3.7	12.5	0.5	49.5	1.3	1.8	2.6	0.9
	青森県 平成29年度	67.8	4.8	17.8	1.0	49.2	1.2	2.1	2.7	1.4
	青森県 平成30年度	64.4	4.4	17.5	0.4	45.7	1.3	1.9	2.4	1.4
	青森県 令和元年度	66.5	4.4	16.2	0.4	45.7	1.1	2.5	1.6	0.9
	青森県 令和2年度	66.2	4.4	12.7	0.2	39.5	1.1	3.2	3.4	0.9
	全 国 令和2年度	58.3	5.0	10.2	0.5	32.2	2.9	3.3	3.3	2.6
高等学校	青森県 平成22年度	X	0.7	5.2	0.3	70.6	1.3	2.0	1.7	0.9
	青森県 平成28年度	67.7	5.1	17.1	0.1	60.8	1.1	2.1	2.2	0.8
	青森県 平成29年度	69.0	3.9	15.7	0.1	59.9	1.0	2.0	2.9	1.0
	青森県 平成30年度	72.4	2.2	10.8	0.1	57.4	1.3	1.9	3.1	1.0
	青森県 令和元年度	71.5	0.6	5.6	0.0	51.9	1.1	1.8	3.0	1.4
	青森県 令和2年度	71.6	1.7	4.1	0.2	48.8	1.7	1.5	1.8	0.9
	全 国 令和2年度	63.2	2.5	6.9	0.3	41.7	2.4	3.3	3.2	1.8

注： 1. 小数点以下第2位を四捨五入している。
 2. 心電図異常については、6歳、12歳、15歳のみ実施している。
 3. 「X」は疾病・異常被患率等の標準誤差が5以上、受検者数が100人（5歳は50人）未満、回答校が1校以下又は疾病・異常被患率が100.0%のため統計数値を公表しない。

ア. 裸眼視力1.0未満の者

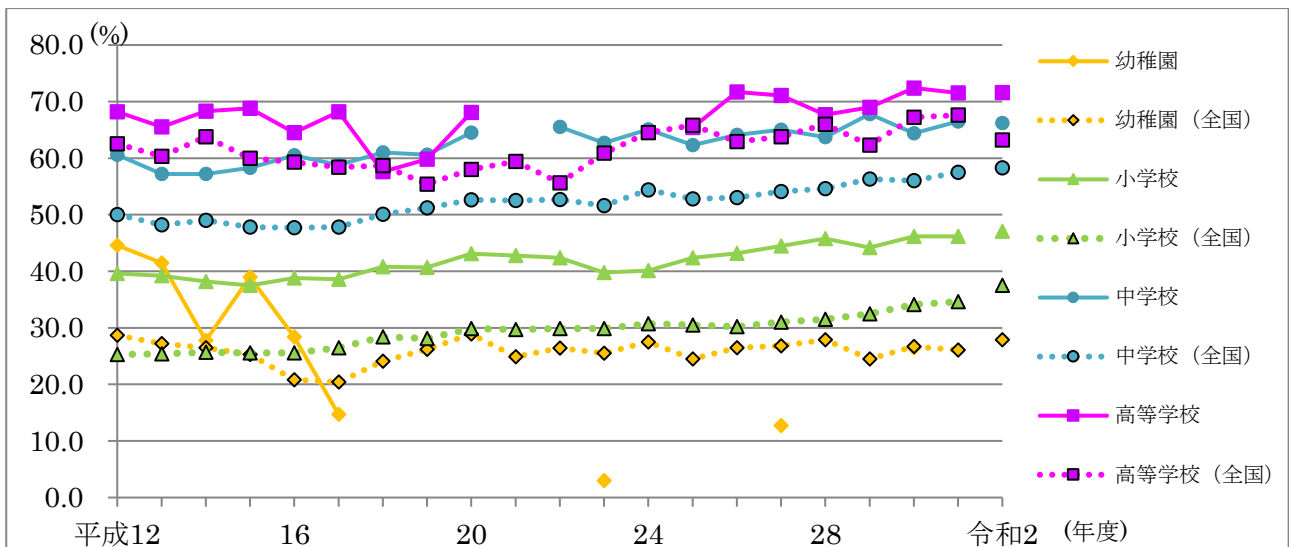
- ・「裸眼視力1.0未満の者」の割合は、20年前と比較すると、幼稚園を除いて、その割合は増加している。
- ・年次推移でみると、全学校区分で、概ね全国平均を上回りながら、増加している。

表9 裸眼視力1.0未満の者の推移

単位 (%)

		平成12年	22年	28年	29年	30年	令和元年	2年
幼稚園	計	44.6	X	X	X	26.5	X	X
	1.0未満0.7以上	35.4	X	X	X	20.6	X	X
	0.7未満0.3以上	8.4	X	X	X	5.2	X	X
	0.3未満	0.8	X	X	X	0.7	X	X
小学校	計	39.6	42.4	45.8	44.2	46.2	46.2	47.1
	1.0未満0.7以上	18.2	16.9	16.0	15.8	16.5	16.2	16.4
	0.7未満0.3以上	13.0	13.3	16.2	15.1	16.0	15.9	15.8
	0.3未満	8.5	12.2	13.6	13.3	13.6	14.0	14.8
中学校	計	60.6	65.5	63.7	67.8	64.4	66.5	66.2
	1.0未満0.7以上	11.5	11.4	11.1	10.1	9.1	10.2	13.0
	0.7未満0.3以上	17.6	17.1	15.2	15.9	16.7	17.4	17.7
	0.3未満	31.5	37.0	37.4	41.9	38.6	38.9	35.5
高等学校	計	68.2	X	67.7	69.0	72.4	71.5	71.6
	1.0未満0.7以上	9.4	X	7.4	9.8	8.5	8.3	10.0
	0.7未満0.3以上	16.6	X	12.5	17.0	16.2	13.0	14.6
	0.3未満	42.3	X	47.8	42.2	47.7	50.3	47.1

グラフ7 裸眼視力1.0未満の者の推移



イ. むし歯（う歯）

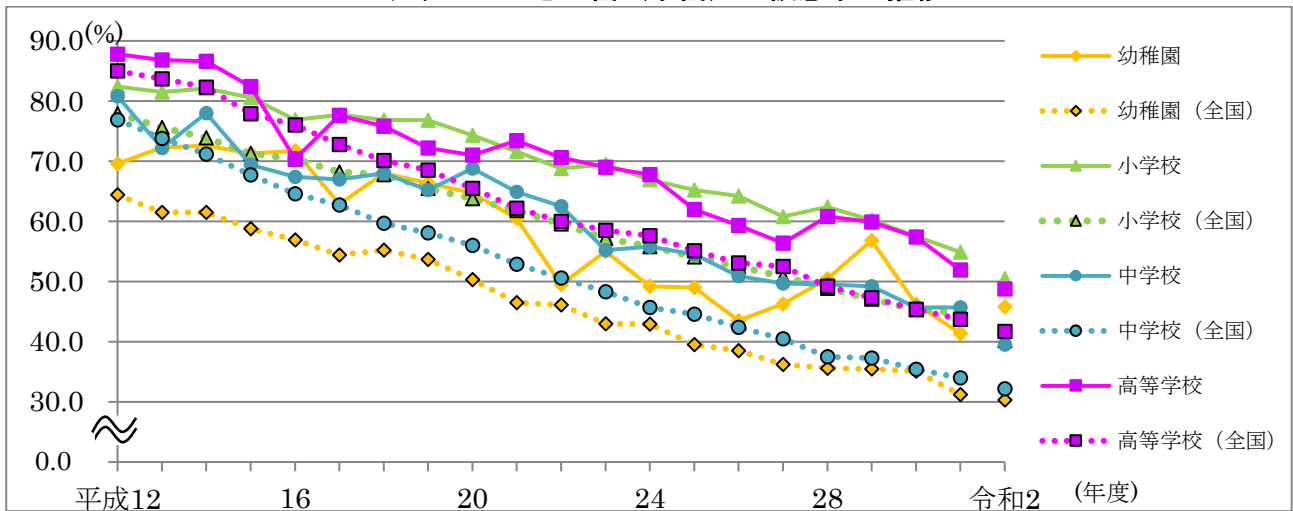
- ・ 20年前と比較すると、全学校区分において、その割合は減少している。
- ・ 年次推移をみると、全学校区分において、概ね全国平均を上回りながら、減少している。

表10 むし歯（う歯）の被患率の推移

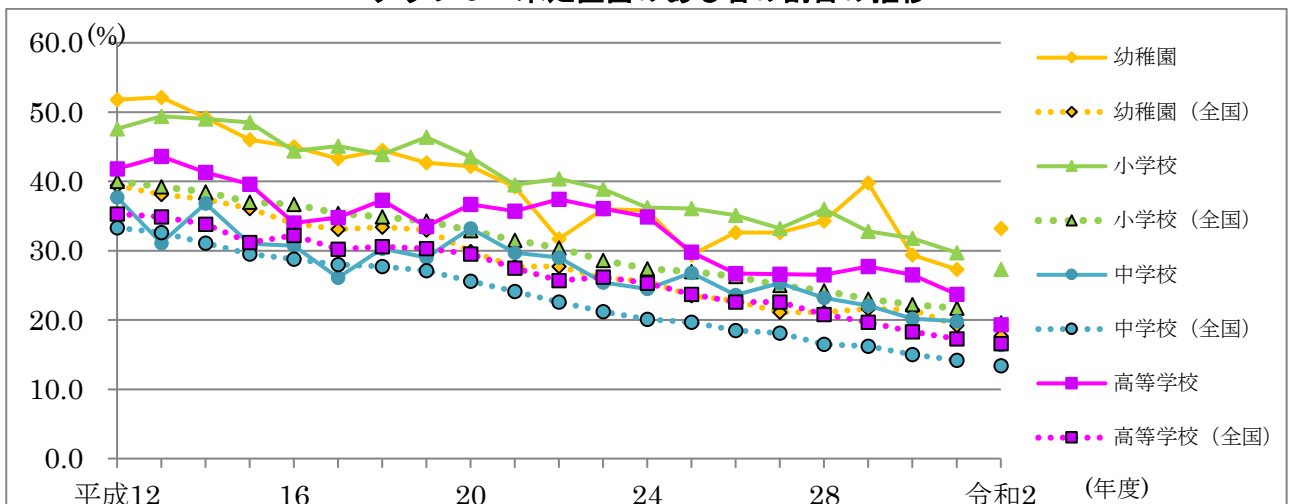
単位（％）

区分		平成12年	22年	28年	29年	30年	令和元年	2年
幼稚園	計	69.6	49.5	50.5	56.8	46.2	41.4	45.8
	処置完了者	17.8	17.8	16.2	17.0	16.8	14.0	12.6
	未処置のある者	51.8	31.7	34.3	39.8	29.4	27.3	33.2
小学校	計	82.4	68.8	62.4	60.2	57.5	54.9	50.5
	処置完了者	34.8	28.3	26.3	27.4	25.7	25.2	23.2
	未処置のある者	47.6	40.4	36.0	32.8	31.8	29.7	27.3
中学校	計	80.8	62.5	49.5	49.2	45.7	45.7	39.5
	処置完了者	43.0	33.5	26.3	27.1	25.5	26.0	23.1
	未処置のある者	37.7	29.0	23.2	22.1	20.2	19.8	16.4
高等学校	計	87.8	70.6	60.8	59.9	57.4	51.9	48.8
	処置完了者	46.0	33.1	34.3	32.2	30.9	28.2	29.5
	未処置のある者	41.8	37.4	26.5	27.7	26.5	23.7	19.3

グラフ8 むし歯（う歯）の被患率の推移

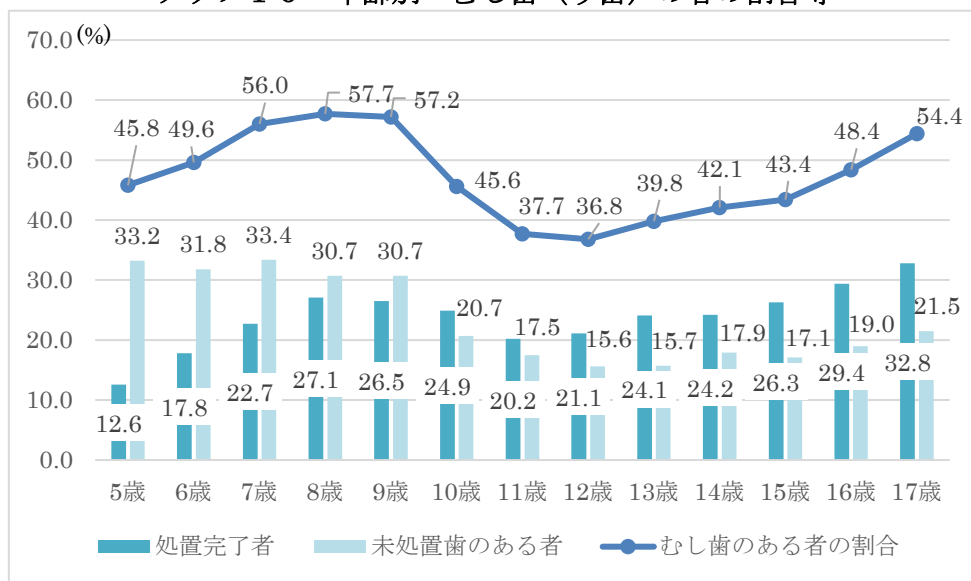


グラフ9 未処置歯のある者の割合の推移



- ・「むし歯」の者の割合を年齢別にみると、8歳が57.7%と最も高くなっている。また、処置完了者の割合は、10歳以降、未処置歯のある者の割合を上回っている。

グラフ10 年齢別 むし歯（う歯）の者の割合等



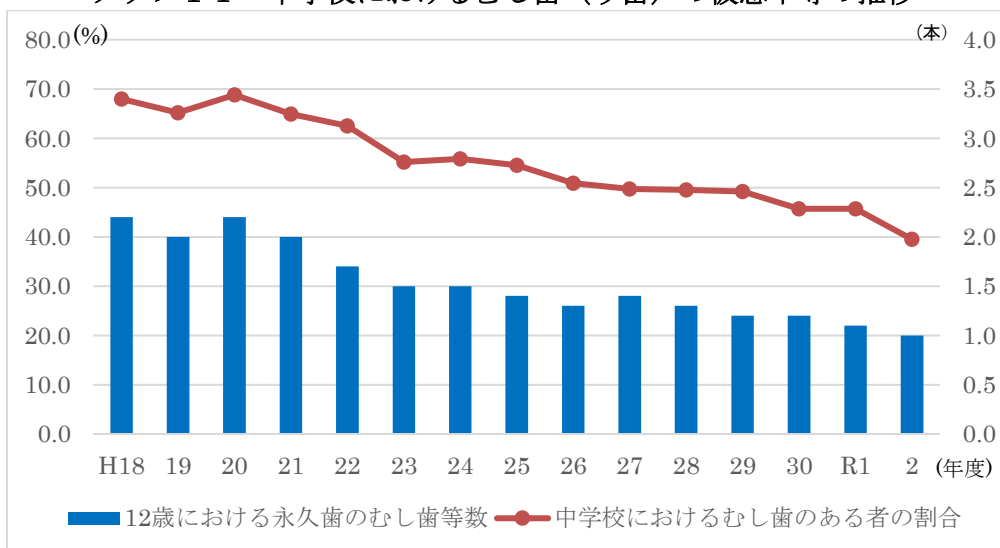
- ・中学1年（12歳）のみを調査対象としている永久歯の1人当たりの平均むし歯数（喪失歯及び処置歯数を含む）は、前年度より0.1本減少して1.0本となり、年次推移でみると減少傾向にある。

表11 12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯（う歯）等数

(本)

区分	平成12年	22年	28年	29年	30年	令和元年	2年
計	2.9	1.7	1.3	1.2	1.2	1.1	1.0
喪失歯数	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0
むし歯 (う歯)	計	2.9	1.7	1.3	1.2	1.2	1.1
	処置歯数	2.0	1.1	0.8	0.7	0.7	0.7
	未処置歯数	0.9	0.6	0.5	0.5	0.5	0.4

グラフ11 中学校におけるむし歯（う歯）の被患率等の推移



ウ. ぜん息

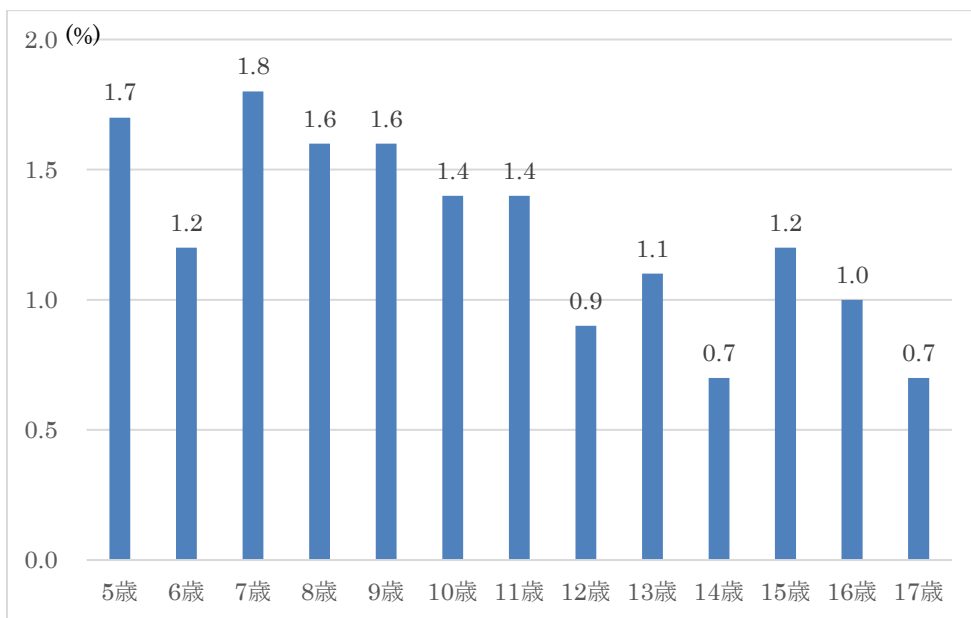
- ・「ぜん息」の者の割合は、20年前と比較すると、全学校区分で増加している。
- ・年齢別にみると、7歳が1.8%と最も高くなっている。
- ・年次推移でみると、全学校区分で概ね全国平均を下回りながら、推移している。

表12 ぜん息の被患率の推移

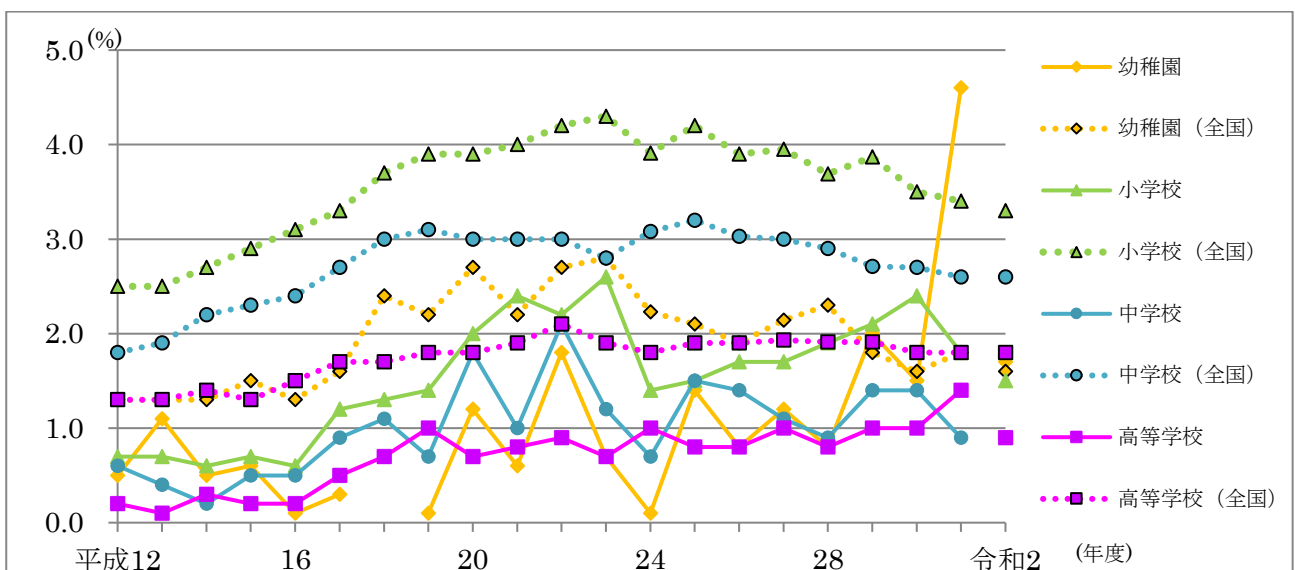
単位 (%)

	平成12年	22年	28年	29年	30年	令和元年	2年
幼稚園	0.5	1.8	0.8	2.0	1.5	4.6	1.7
小学校	0.7	2.2	1.9	2.1	2.4	1.8	1.5
中学校	0.6	2.1	0.9	1.4	1.4	0.9	0.9
高等学校	0.2	0.9	0.8	1.0	1.0	1.4	0.9

グラフ12 年齢別 ぜん息の者の割合



グラフ13 ぜん息の被患率の推移



エ. アトピー性皮膚炎

- ・「アトピー性皮膚炎の被患率」は、幼稚園を除いた学校区分で、全国平均を下回っている。
- ・10年前と比較すると、その割合は幼稚園と高等学校においては増加し、小学校と中学校においては減少している。
- ・年次推移をみると、全学校区分で、概ね全国平均を下回りながら、推移している。

表13 アトピー性皮膚炎の被患率の推移

単位 (%)

	平成22年	28年	29年	30年	令和元年	2年
幼稚園	1.9	1.4	1.3	2.3	1.9	6.9
小学校	1.7	1.3	1.7	2.2	1.4	1.5
中学校	1.9	1.3	1.2	1.3	1.1	1.1
高等学校	1.3	1.1	1.0	1.3	1.1	1.7

グラフ14 アトピー性皮膚炎の被患率の推移

